

秋田港・能代港再生可能エネルギー導入検討協議会
第3回協議会（平成26年3月14日） 議事概要

1. 開会
2. 議事

1) 第2回協議会後の検討内容

2) 資料説明

3) 追加提案資料説明

4) 討議

（高橋 委員代理）

- ・ 港口部は船舶の航行に最も安全性を確保しないといけない場所である。風車が設置されると偽像が出る可能性がある、港口に近い1～2本までは対策が必要である。明石海峡大橋では塗料による対策も行われているようである。

（事務局）

- ・ 対策の一例として、塗料についても付帯事項に記載する。

（高橋 委員代理）

- ・ 秋田港の適地A-2付近の開口部について、6－8月には県外から多くのイカ釣船が集まってきて、この開口部を利用している。能代と同様な適地の除外が必要ではないか。
- ・ 不慣れな船長が、風車設置に伴い開口部の利用を躊躇して、航路へ廻ることになると、大型船との競合が生じて問題である。

（事務局）

- ・ 県漁協から情報をいただいた上で対応したい。

（舟木 委員代理）

- ・ 6－7月にはイカ釣船が、南は長崎、北は北海道から集まってくる。
- ・ 船は漁場の位置に応じてルートを設定する。能代のように決まった漁場があるわけではないと思われる。

(事務局)

- ・ 別途協議して、対応を決定したい。

(高橋 委員代理)

- ・ 了承した。

(高橋 委員代理)

- ・ 港口は多くの船舶が輻輳する海域で安全確保に十二分に配慮してほしい。
- ・ 風車の航空標識（フラッシュライト）やライトアップも問題があるとする。周辺の燈火への影響や、霧などの時は光が周辺に拡散して、航路標識や周辺の船の燈火が見えなくなる。港則法でもみだりに燈火を設置できないことになっている。
- ・ 港口周辺の風車設置には問題があるとする。

(事務局)

- ・ 風車の位置は参考であり、事業実施にあたっては、関係機関と調整の上での設置と考える。

(加賀屋 委員)

- ・ 適地を決めてしまえば、事業者はそこに風車を建てても良いと理解する。事業者まかせではなく、具体的な安全対策や適地の設定をすべきである。

(事務局)

- ・ 適地であればどこでも良いということではなく、付帯事項で整理する内容について、具体的な事業計画で関係機関と調整するものである。
- ・ 現時点で、配慮すべき港口部からの距離等があればお教え願いたい。

(川島 委員長)

- ・ 適地の選定は、可能性がある場所の設定であり、港湾計画に位置づけるためである。
- ・ 風車の規模や基礎構造が決まらない現時点では詰め切らない部分もある。
- ・ 事業の計画時には、安全対策、環境対策などの影響評価を行うことになる。
- ・ 現段階で明らかに除外すべき場所は本協議会で適地から除外し、明らかではないが、注意すべき内容については付帯事項に記載し、配慮すべきことを明示することが重要である。

(佐藤 委員)

- ・ 能代港の開口部について、漁場方向への適地の除外地は設定いただいたが、米代川の河口で三角波が立ったり、開口部で船の行き交いは危険でできないので、入ろうとした船が

開口部から出てくる船を待つことがよくある。

- ・ そう考えると今の除外区域は開口部の前面で範囲が狭い。出てすぐの場所を広くしてほしい。

(事務局)

- ・ 能代港の開口部前面の必要な海域については、詳細を後日調整させていただきたい。
- ・ 秋田港、能代港両港の港口部についても、同様に後日調整させていただきたい。

(工藤 委員)

- ・ 適地であって、解決すべき問題があり、どこでもいいという事では無いことを明示してほしい。

(事務局)

- ・ 適地への課題は付帯事項でまとめる。
- ・ また、3回の協議をまとめた報告書を作成する予定である。事業化に向けては協議会の内容を確実に反映させたいと考えている。

(川島 委員長)

- ・ 協議会の次のステップはどうなるのか。

(事務局)

- ・ 風力発電施設導入に際しては、次は事業者の公募の段階である。
- ・ 今回の協議会は港湾利用を中心に協議させて頂いたが、公募となると別の視点も必要となり、委員構成の調整も含めて新たな協議会を立ち上げる予定である。

(石井 委員)

- ・ 次の段階の協議会においても、安全対策など、本協議会の内容を確実に引き継いでもらいたい。

(中村 委員)

- ・ 公募の後、事業者が決まれば、事業計画を作成し環境アセスを実施する。
- ・ その上で、事業者は港湾管理者に占有許可の申請をする。
- ・ 港湾管理者である県は、付帯事項や協議会での協議内容、別途、国で現在検討が進められている「ガイドライン」に基づいて占有許可の可否を判断する。その段階でチェックすることになる。

(土谷 委員)

- ・本協議会では港湾区域内の水域が議論の中心であったが、県としては地域の活性化や産業育成の観点から、港の背後地についても今後どのような活用が可能か検討を進めたい。
- ・また、より大規模な洋上風力発電の可能性についても研究会を立ち上げている。漁業権区域のある海域での取り組みも今後調整できればと考えている。

(川島 委員長)

- ・付帯事項についての意見を伺いたい。

(加賀屋 委員)

- ・防波堤開口部の安全性の項目があるが、開口部だけでなく、港口部も入れるべきである。また、関係者に水先人や作業船（タグボートなど）の関係者も入れるべきではないか。

(中尾 委員)

- ・事業者による計画段階での調査、風況調査やボーリング、環境調査などの段階から事前協議を行うことが有効ではないか。

(菅原 委員)

- ・地上デジタル放送に関して、秋田港のみに放送事業者が関係者として入っているが、今後のこともあるので、能代港にも同様の対応をお願いしたい。

5) 総括

(事務局)

- ・港口部の安全性確保について追記し、調整先に水先人等を追加する。
- ・レーダー対策としての塗装を追加する。
- ・港口の適地設定に関しての具体的な除外地設定は、調整事項とする。
- ・秋田港防波堤開口部のイカ釣り船への対応は、調整事項とする。
- ・能代港防波堤開口部前面の待機場所の確保は、調整事項とする。
- ・能代港の電波障害についても放送事業者を追加する。
- ・調整事項は意見を頂いた委員と後日詳細を調整し、合意を得た内容で報告書を作成、全委員に送付する。
- ・報告書完成後も意見があれば修正に応じる。

(中村 委員)

- ・港湾計画における適地については、ゾーニングとしての位置づけであり、港湾計画図上では大括りな範囲指定になる予定である。
- ・ただし、公募においては、今回協議頂いた適地を指定させていただく。

3. 閉会